

現代の若者における
親密性をめぐる諸問題について

2012年1月12日

山田 夕加里

この問題を論じるに当たり、恋愛とは一体どのような事なのかを億足でしか理解していなかったため、まず恋愛に入る前に「“愛”とは一体どのようなものなのか」を考えていく必要がある。現在恋愛に関する書物が数多く出ており、その多さから恋愛に対する考え方の変化が出てきたのではないかと感じる。本稿では特に恋愛書物を通し現代の恋愛の価値観が以前とはどう違うのかを明確にしていきたいと思う。愛には様々な種類があるが恋愛とは多くは異性同士で成り立つものである。恋愛は必ずといっていい程一回は誰でも経験する事であろう。その恋愛が何故今こんなにも議論されているのか。恋愛には何かルールがあるのだろうか。恋愛の形態は様々で同じ恋愛は無いと思うが何か一定の法則の様な物が存在するのだろうか。

第1章では“愛”の語源や本質を見極め、恋愛とはどう違うのかを述べていく。愛には様々な意味があり、宗教的な意味も多く存在するがそれだけではない。愛は親子愛を始め神への愛など身近なものへの愛がほとんどである。愛とは“慈しみ”という気持ちが重要である。ここで愛に関し述べていく事で根本的な概念を理解する。第2章ではコミュニケーションの変化に関し、インターネットの普及により様々なコミュニケーションツールが増えてきた。オンラインで他者と会話出来るサイトも存在しその事が影響しコミュニケーションにどのような変化があったのかを明確にしていく。そして第3章では近年の若者が人付き合いに関してどう思っているのかを読み解く事で恋愛の変化を見ていく。近年若者は同じ屋根の下で暮らしながら家族とは別の空間で過ごしているように感じる。その影響で家族との関係に変化は出てきているのであろうか。どのような事をして過ごしているのだろうか。

最後に第1章から第3章を踏まえ、第4章で恋愛に関して恋愛コラムや恋愛に関する書物を通して恋愛を若者がどう捉えているのかを述べていったのである。

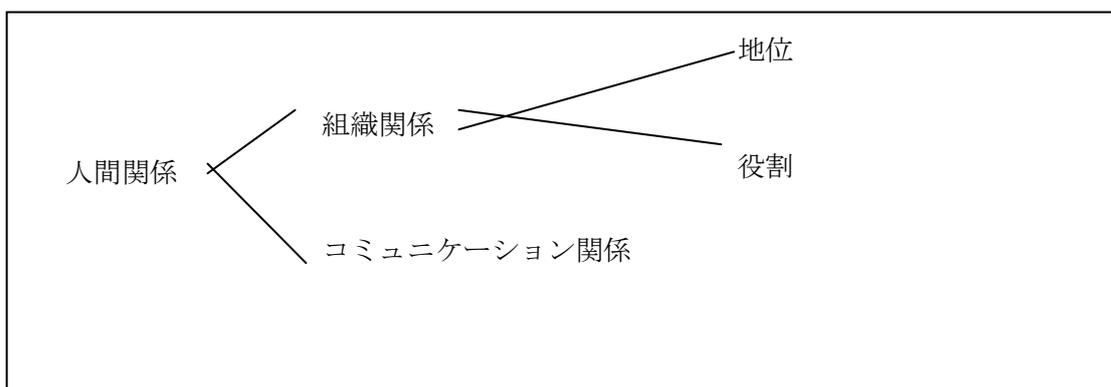
まず、愛とは本質的には人格相互の関係であるということである。神の愛と言われる愛も抽象的絶対原理ではなく生きた人格的な存在であり、哲学者の神ではなく私たち人間と愛の関係にいるものだと考えられているためである。そこから愛とは人格相互の関係で成り立つと考えていくことが出来ると考えられる。また、間接的に好意を持っていたとすればそれはまだ人格相互の関係にはなっておらず、直接関わりを持って初めて成立するものである。

“愛”と呼ばれる人格関係においても、この二つの契機が存在し、男女間の恋愛関係において閉鎖的な関係からの人格相互関係への変化はもはや、他人事ではなく身近な存在となり

そこから愛の本質的構造の一部が見えてくる。男女間の愛情は一番ポピュラーとされており愛の本質構造を最も強度に実現するからである。主体的な一致という条件がほかのあらゆる場合と違って人間存在の全領域にわたって存在すること,すなわち精神のみならず全てで一致することが重要である。動物などと違い私たちが全てを相手と一致することは動物にはない精神的な繋がりを大切にしているからである。コミュニケーションも愛と同じく相互関係で成り立つものである。近年ではインターネットの普及により,コミュニケーションの取り方にも変化があったが根本的には他者とのつながりにおいてのツールの変化であって相互関係という概念は変わっていない。

人間関係を整理していくと2つの要素がある。図2-21を参考に1.組織関係 2.コミュニケーション関係を挙げる事が出来る。まず,組織関係とは地位と役割の関係である。会社では社長など様々な地位と役割がありその地位に応じた役割がある。地位と役割が合っていれば組織関係は安定するといえる。第2にコミュニケーション関係を見ていく。日本においては言語で男か女かを判断することも出来る。多くの場合,自分を表現するのに日本では男性は「俺」や「僕」など女性は「私」などを使用し一人称から見ても性別が言葉だけで分かるようになっている。欧米などに関しては一人称の多くは決まっているので言葉で性別が分かるのは珍しい事である。性別の違いによってもコミュニケーションの方法は異なってくるとされる。恋愛に関しても多くは男性と女性で成り立つものであるがこのコミュニケーションの違いも恋愛に結びつくのではないだろうか。

図1 人間関係の要素



出典：南 博,『これからどうなる？ 男と女 日本人のアプローチ』,1985年,P.18

若者の家族に対しての考え方に関して述べていくが,ここでもコミュニケーションは深く関わって来ている。その上で若者の恋愛に関してどう捉えているのかを述べていきたいと思う。若者が現在人付き合いに関しどう思っているのか,実際にどう行なっているのかを見ていくと,家族間でのコミュニケーションの変化として IT 関連機器 (ICT) などの普及

により家庭内で若者が一人で過ごす時間を増加させ、家族の行動の個別化を促進している可能性があると考えられる。こうしたことから現在本来ならば一番身近な存在である家族が仕事や習い事で家に居る時間が少なく、なおかつ核家族化やインターネットの普及により携帯電話やテレビが一人一台である事などが原因で家族が一緒にいる時間が少なくなってきており家族間でのコミュニケーション不足が生じていることが見て取れた。

また、地域や職場などで表面だけの一部の繋がりで良いと考えている人の割合が多くひと昔前の地域で何かをするといった考え方がなくなってきているように感じるため、結果として人間関係の変化に伴う影響により家族間のコミュニケーションに変化が出ている。

現在の恋愛の仕方として交際に発展する対象は身近な存在であるというのが多く意外にも男性が女性と交際する上で求めているのが家事が出来るなどでは無く一般的な常識であった。若者がそう答える背景として近年若者のマナーの悪さが目立ってきているのではないだろうか。例えば、街を歩いていけば平気でゴミをポイ捨てしたり、「～なんですけど」や、「うざい」「だるい」などの若者言葉を使う女性も多く見られ男性はそうい

う言葉を使う女性を敬遠しているのではないだろうか。そのことから女性に一般的なマナーを求めると共に服装に関しても露出の少ない服を好んでいると感じる。一方女性は優しさや誠実さなどを男性に求めている。交際をした際などに他の女性に好意を抱くような男性は将来家庭を築いた時に信頼できない為女性は本能的に子供を守っていく役割があるので恋愛対象として不適切であると察するのではないだろうか。そして、コミュニケーションの変化が恋愛にも現れており以前は文章として残せるのが手紙しかなく手紙はすぐに返信が来ないため不便な点も多かったがインターネットの普及し、メールがいつでも出来る様になりコミュニケーションが好きな時間にとれるようになった。メールが普及し、交際をスタートさせるきっかけにも変化が現れた。直接顔を見なくても告白が出来るようになったのはもはや時代の象徴と言ってもよいのではないだろうか。しかし、メールだと感情があまり伝わらない部分もあるので直接好意を伝えたほうがより効果的であると言える。恋愛は相互間で成立するので愛情に差がない方が望ましい。5:5 の関係の方が対等であり、安定した関係と言えよう。そして、時代は変われど食事をした際の費用は男性が持つ事が一般的であるのは変わらなかった。それは男性が女性に対しての守るという意識の表れでもあり自己のプライドでもある。恋愛はコミュニケーションの変化は多少あったものの大きく時代の変化は見られなかった。

”愛とは一体何なのか” この概念を整理するとまずは、愛とは相互関係で成り立つものであるという事である。この相互関係とはコミュニケーションを取る上でも重要になっており、一人では行う事が出来ない。神に愛を捧げる信仰愛もキリスト教の考えでは「神様は私たちのすぐそばにいる」従って神への愛も対象者との相互関係で成立しているのである。愛は多様な概念で構成されているが慈しむ心を”愛”と呼んでも良いのではないだろうか。

コミュニケーションは現在インターネットの普及によりコミュニケーションの内容はコンピュータを通す場合も多く見られるようになった。中でも携帯電話が普及し現在国民のほとんどが所持している。オンライン上での交流を主としたサイトも存在し、インターネット上で友人や知らない人とも容易にコミュニケーションが取れるようになった。

インターネットが普及する以前は直接会うか、手紙でやり取りをするか、固定電話を使用してもインターネット程交流がスムーズに出来ることは無かった。固定電話が普及し始めた当初電話でのコミュニケーションは「いつでもどこでも」行えると人気だったが、近年 IP 電話の普及や携帯電話の普及により年々減少している。携帯電話から気軽に相手に送る事の出来るメール機能は電話と違い時間帯を気にする事無く送信する事が出来るが、メールは電話と違い感情を表現するのは難しいとされる。その為文章に顔文字や絵文字などで感情をより分かりやすく表現する工夫が試みられてきた。

そして、近年若者はあまり人付き合いを好まない傾向にあるとされている。付き合いも挨拶程度の方が気が楽というのである。また、家族と同じ屋根の下で暮らしながら一人で過ごす原因に関し、一人の時間を大切にするという習慣が社会全体を通して出来たものである。インターネット上の交流サイトでは自分の気持ちを直ぐにつぶやける機能が人気があり、人間関係が希薄であると感じながらインターネット上では濃いと錯覚する様な人間関係が出来上がっているのではないかと感じる。この事を反映する様に恋愛に対しても変化があったように感じる。現在交際をするきっかけとして告白をする際にメールで済ませる若者が多いのではないだろうか。電話や直接会って伝えた方が効果は高いのだが直接伝える勇気が無くメールだと比較的スムーズに伝えられると感じる。その為近年では告白をする際にメールを利用することが多いのである。メール苦手な男性も多く女性はコミュニケーションツールとして捉えているが男性は連絡手段の一つにしか過ぎないという事を忘れずに送る必要がある。恋愛に関して異性に求める条件として男性は女性に一般的なマナーを求める傾向があり、以前だったら家事などが挙げられるのであろうが近年女性のマナーの低下がこの事からも推測されるのではないだろうか。女性は、優しさや誠実さを求める傾向があり、本能的に子供を守っていかなくてはならないので浮気をしない誠実な男性を好むのではないだろうか。その上で、現在恋愛に関する書物が数多く出ており、その多さから恋愛に対する考え方の変化が現れ、恋愛書物を通し現代の恋愛の価値観が以前とはどう違うのかを分析してきた。

恋愛は以前に比べコミュニケーションの変化により多少変化はあったものの大きく概念を変える事は無いと考える。何故かという、男性と食事に行った際の支払いに関してもそうだが価値観は変化しておらず、相変わらず男女平等と言われている時代でも男性が支払いをしているからだ。この事は女性も男性も多くは当然であるとの傾向があり恋愛に関する概念はさほど変わっていないと言える。これまで検討してきた書物の多くは恋愛のルールという物が存在するが、どの本も共通してポジティブな姿勢が大切であると述べていた。

自分の気持ちで恋愛は大きく変わるということであろうか。

恋愛を始めた場合、様々な気持ちを経験するであろう。そのとき、何か恋愛に関して自分を勇気づけてくれるような書物の存在は恋愛を開始したものにとって心の拠り所ではないのだろうか。

恋をしたら自分がこれから何をしたらよいのだろうか。恋愛の書物はそんな右も左もわからない状態のものにとっては救世主であろう。恋愛とは必ず多くの人を経験する事だと思う。時代によって大きな変化は無かったと言えるがコミュニケーションの変化などで恋愛の方法も変わってきた。すなわち、恋愛とは自分の思いを相手に伝えたり恋愛をする事で心の拠り所がいき、人として大きく成長する事であろう。そして、時には密な人間関係が必要になってくる場合もある。近年の若者の人づきあいは希薄化が目立っていると述べてきた。しかし、人間は一人では生きてはいけない。親密な関係を築き支え合って生きていくことが重要なのである。その対象者が恋人であったり、心の底から信頼出来る相手が必要なのである。

この事から恋愛とは人間が生きていく上で欠かせないものであると同時に近年の人間関係の希薄化によりさらに密な関係を望んでいると言えよう。